

法曹専攻

法曹専攻

※ 選考方法を確認してください。

科目の申請にあたっては、開設授業科目一覧の「申請条件」欄にかかわらず、ホームページ掲載の「選考方法について」を参照し、選考方法、面接までの流れを確認してください。

出願前に必ず教育組織に連絡し、面接日時等を確認してください。

学位プログラム名	受入有無	選考方法	面接者	面接日時（春学期）	面接日時（秋学期）	留意事項	連絡先
法曹専攻（専門職学位課程）	有	書類審査及び面接	専攻教員	3/2（土）～3/9（土） 本人と打ち合わせの上、決定	7/6（土）～7/13（土） 本人と打ち合わせの上、決定	本学ビジネス科学研究科法曹専攻（法科大学院）を修了後3年以内の者及び修了見込みの者以外の者は、面接を行うことがあります。出願者は出願期間中に右連絡先に連絡してください	law-school@un.tsukuba.ac.jp

法曹専攻

法律基本科目群[実定法基礎科目]

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考	科目等履修生申請可否	申請条件	開設
0AFL001	憲法I-A〔人権〕	1	2.0	1	春AB	随時	大石 和彦		日本国憲法第3章所定の基本的人権規定の中でも特に自由権制約の含憲性審査の基本的作法につき、それぞれの規定の歴史的背景や学理的構造、判例による具体化のあり方を視野に入れつつ、主に精神的自由権を中心とする部分を素材に、人権編解釈論の基本的な思考法を身につける。特に初学者に対しては、人権分野の学習法(「基本書」や判例を読む際の注意点)についても折に触れつつ指摘する。 本科目では人権総論、包括的基本権、平等原則、精神的自由権までをカバーする。	01NA028と同一。 オンライン(オンデマンド型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL003	憲法I-B〔人権〕	1	2.0	1	春C夏季休業中	随時	大石 和彦		「憲法I-A」に引き続き憲法人権編部分の解釈論につき学んでゆくが、「憲法I-A」で取り上げた自由権とは対照的に、憲法段階では(法令による具体化を待たない)輪郭のはっきりしない、いわゆる憲法制度依存的な権利をめぐり、立法裁量などの程度尊重すべきか、立法裁量を尊重しつつも、それを統制する手法としていかなるものがあるかといった問題にも取り組む。	オンライン(オンデマンド型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL005	憲法II〔統治〕	1	2.0	1	春AB	月7.8	5F502 講義室	岡田 順太	「統治機構論」の基礎理論を確認しつつ、具体的事例を素材としたケーススタディ方式の授業を行う。 講義を中心とするが、可能な限り受講者参加型、対話型双方向形式の授業の実施に努めつつ、日本国憲法がためた統治機構について考察する。 なお憲法訴訟論については、それらにつき専門に扱う個別の科目が別途設置されているので、それらに譲る。	01NA002と同一。 対面(オンライン併用型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL011	民法I〔総則・物権総論〕	1	2.0	1	春AB	土4.5	5F502 講義室	直井 義典	授業は講義形式とし、担保物権を除く物権法、および、民法総則のうち「物」ならびに時効に関する箇所を取り扱う。 民法全体における物権法の位置付けについて理解するとともに、講義対象となる制度に関する基本的知識(特に、事件・効果・立法趣旨)を身につけることを目的とする。また、特に本講義が1年次配当の基本科目であり民事系科目の入門をなすことから、法的なものの考え方、議論・論証の仕方、条文・判例などの素材を用いて修得できるようにする。	01NA005と同一。 対面(オンライン併用型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL013	民法II〔担保物権〕	1	2.0	1	秋AB	土2.3	5F502 講義室	直井 義典	本授業は、債権回収を確保する手段たる「担保(制度)」の意義や仕組みについて、判例・裁判例も参照しながら扱う。具体的には、抵当権・質権といった約定担保物権、留置権・先取特権といった法定担保物権のほか非典型担保物権について検討する。 担保の「実行」や「保全」等については、「民事執行法」や「民事保全法」の知識も広く求められることとなること、本授業も必要限りにおいて適宜これに触れることになる。	01NA006と同一。 対面(オンライン併用型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL015	民法III〔債権総論〕	1	2.0	1	秋BC	随時	5F502 講義室	村山 淳子	本講義の目標は、(1)債権一般に関わる基本事項を正確に理解すると同時に、契約法・債権法の基本的な仕組み、基礎理論、諸制度を体系的に理解する。(2)債権一般に関わる様々な判例・裁判例を正確に理解する。(3)日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。債権法に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。(4)ほかの民法関連科目の授業とあわせて、民法全体の基本的な仕組みを理解する。 授業は講義形式で、民法の講義上「債権総論」と呼ばれている部分、民法の編別で言えば、第3巻・債権の第1節・総則を対象とする。債権総論に関わる事項の習得及び法的な思考能力の向上を目的としている。 この授業では、ほかの民法関連科目、とりわけ、民法IV-1と民法IV-2との関連に留意しつつ、債権の種類や効力、債権回収等の場面で生ずる問題を中心に説明を行う。	01NA015と同一。 オンライン(オンデマンド型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL017	民法IV-1〔契約法〕	1	2.0	1	春AB	随時	5F502 講義室	村山 淳子	本講義の目標は、(1)総則・契約法(前半)の基本的な仕組み、基礎理論、諸制度を体系的に理解する。(2)総則・契約法(前半)に関わる様々な判例・裁判例を正確に理解する。(3)日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。総則・契約法(前半)に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。(4)ほかの民法関連科目の授業とあわせて、民法全体の基本的な仕組みを理解する。 授業は講義形式を中心とする。	01NA022と同一。 オンライン(オンデマンド型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻
0AFL019	民法IV-2〔契約法〕	1	2.0	1	春C夏季休業中	随時	5F502 講義室	村山 淳子	本講義の目標は、(1)契約法(後半)の基本的な仕組み、基礎理論、諸制度を体系的に理解する。(2)契約法(後半)に関わる様々な判例・裁判例を正確に理解する。(3)日常生活や取引活動の中で起こる様々な事実や紛争の中から法的問題を抽出する能力を身に付ける。契約法(後半)に関する法的ルールを使いこなす能力を身に付ける。(4)ほかの民法関連科目の授業とあわせて、民法全体の基本的な仕組みを理解する。 授業は講義形式を中心とする。	01NA023と同一。 オンライン(オンデマンド型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考	科目等履修生申請可否	申請条件	開設
0AFL021	民法V〔不法行為・不当利得法〕	1	2.0	1	秋AB	火7.8	5F502 講義室	白石 友行	この授業は、講義上「債権各論」と呼ばれている部分のうち、役務提供契約、その他の契約類型、事務管理、不当利得、不法行為についての基本的な理解を修得することを目的としている。各制度や条文の意味、趣旨、機能、要件、効果などについて知識を獲得するだけでなく、民法全体について、体系的な理解を確立することが目標である。また、この授業を通じて、単に上記の各分野に関する基本的な理解を修得するだけでなく、民法的な考え方を獲得し、法解釈のための力を向上させ、現実生起する様々な紛争を解決（予防）するための能力を養成することも目指している。授業は、基本的に、担当者が作成した資料に基づき、場合によっては質疑応答をまじえながら、講義形式で行われる。講義資料については事前に配布するので、受講生は、最低限、この講義資料の該当部分を熟読して授業に臨むことが求められる。各回の授業は、受講生が十分な予習をしていることを前提に実施される。講義資料には、各回の授業で最低限確認しておくべき内容や、事例へのアプローチの方法を学ぶために詳細な事例が付されているので、質疑応答などを通じて知識の定着と法的思考能力の向上を図ってほしい。	01NA017と同一。 対面（オンライン併用型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL023	民法VI〔家族法〕	1	2.0	1	春C夏季休業中	火7.8	5F502 講義室	大塚 正之	民法第4編親族法、第5編相続法全般を対象とし、親族法、相続法の基本的考え方、制度趣旨、個々の条文の趣旨を、主要な裁判例を通して学修する。毎回の授業を、復習用に詳細な解説を交付する。	01NA027と同一。 対面（オンライン併用型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL029	民事訴訟法I	1	3.0	1	秋ABC	随時		田村 陽子	民事紛争の公権的解決手段を定める民事訴訟法の判決手続全般について講義する。民事訴訟の制度的な仕組みを概観したうえで、その手続の基本原則や構造について、それぞれの適用事例を示しながら講義の中で解説する。第1に、民事訴訟法の基礎を学んでもらうこと、第2に、2年次以降に予定されている民事訴訟実務の基礎、民事法演習の受講に必要な技術的知識を獲得することが目標である。この科目で、全国統一教育基準であるコア・カリキュラムの民事訴訟法部分については一通り扱う予定であるが、実際の項目との対応関係については、順番が異なり煩雑になるので、別途冊子を配布し、そこで具体的項目の対応関係も示すので、授業の予習・復習教材として扱う。	01NA024と同一。 オンライン（オンデマンド型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL031	刑法I〔総論〕	1	2.0	1	春AB	随時		渡邊 卓也	本講義では、刑法の基礎理論及び刑法総論についての基礎知識の修得と体系的理解を図る。また、関連判例の検討を通じて、事実即した具体的問題解決に必要な法的分析能力や議論能力の前提となる、基礎的能力を育成する。刑法総論の基本論点における最新の重要判例・学説に関する知識・理解を正確に身に付けた上で、時として抽象的であるこれらの議論がいかに関実の問題解決のために寄与しているのかを具体的な事例の学修を通じて理解して貰うことを目標とする。授業は講義形式とする。	01NA012と同一。 オンライン（オンデマンド型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL033	刑法II〔各論〕	1	2.0	1	秋AB	随時		渡邊 卓也	本講義では、刑法各論についての基礎知識の修得と体系的理解を図る。また、関連判例の検討を通じて、事実即した具体的問題解決に必要な法的分析能力や議論能力の前提となる、基礎的能力を育成する。刑法各論の基本論点における最新の重要判例・学説に関する知識・理解を正確に身に付けた上で、時として抽象的であるこれらの議論がいかに関実の問題解決のために寄与しているのかを具体的な事例の学修を通じて理解して貰うことを目標とする。授業は講義形式とする。	01NA013と同一。 オンライン（オンデマンド型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL035	刑事訴訟法I	1	3.0	1	秋AB 秋C	火7.8 土4.5	5F502 講義室	尾崎 愛美	この授業では、犯罪の捜査、公訴の提起、事件の審理、判決へと至る刑事手続の制度について説明する。刑事訴訟法の条文の文言を理解するだけでなく、現行憲法や刑事訴訟法が制定された歴史的背景にも着目しながら、わが国の刑事手続の概要・特徴を把握することを目的とする。その上で、手続が進行する中で生じる重要な法的問題について検討を加える。具体的には、刑事訴訟法の重要論点に関する判例の事実を用いつつ、判例や関連する学説に対する理解を深めることにより、法解釈・法適用のあり方を修得する。	対面（オンライン併用型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻
0AFL051	基礎ゼミⅠ	2	1.0	1	春B	土6.7	5F502 講義室	森田 薫石	初学者を念頭に、民法について、今後の学習方法の方向性を把握してもらうことを目指す。比較的短い事例問題を題材に用いる。特に、法的議論の進め方の特徴を概念的にも理解すること、基本書や判例を読む際の注意点、使用方法に留意する。以上により、法学学習の最初期に学習の骨格部分を固め、以降の学習に臨む態勢を整える。	対面（オンライン併用型）	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載（様式任意）し、それを裏付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり（履修目的や受講人数等により協議します）。	法曹専攻

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考	科目等履修生申請可否	申請条件	開設
0AFL053	基礎ゼミⅡ	2	1.0	1	春C	土4.5	5F502 講義室	福田 純一、山岸 久晃	初學者を念頭に、憲法、刑法について、法的な考え方や、法的な表現を把握してもらうことを目指す。 各科目における重要な解釈論を含む事例問題を題材に用いる。基本書や判例を読む際の注意点、使用方法に留意する。以上により、以降の学習に臨む体制を整える。	対面(オンライン併用型)	△	面接あり。また、出願要領で指定する出願書類のほか、法曹専攻では科目等履修生として当該科目を出願する理由について、1,000字以内で記載(様式任意)し、それを表付ける資料があれば併せて当該資料を添付すること。人数制限あり(履修目的や受講人数等により協議します)。	法曹専攻

展開・先端科目群(選択必修科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考	科目等履修生申請可否	申請条件	開設
0AFL423	金融商品取引法	1	1.0	3	夏季休業中	随時		萬澤 陽子	本講義では、証券取引規制の全体を概観した上で、特に企業買収に関わる規制を中心に取り上げ、その内容・趣旨等について、判例や学説にも触れながら学ぶことにより、金融商品取引法についての法的知識と理解を得させ、法的思考力の養成を図る。 授業は予習を前提とした講義を中心とする。	01NA354と同一。 オンライン(オンデマンド型)	△	本専攻を修了後3年以内の者及び修了見込みの者	法曹専攻
0AFL443	民事執行・保全法	1	1.0	3	春A	月7.8	5F504 講義室	松家 元	本講義では、民法や民事訴訟法との関係を重視しつつ、具体的な例等をもとに、民事執行法・民事保全法の仕組みと基本的な諸問題について理解することを目的とする。 講義では、実務家教員の観点から、実務上の利用実態、制度と実務の乖離等について触れることを予定しているため、条文、手続の概要等について学生に大まかな知識があることが前提となり、教科書の次回の範囲を事前に精読し、条文等の概要について予習して臨んで頂く必要がある。 各回の授業の進行は、基本的に前回の復習、教科書の指定範囲の解説・質疑を想定している。	01NA412と同一。 対面(オンライン併用型)	△	本専攻を修了後3年以内の者及び修了見込みの者	法曹専攻